JSP ニュース

2014年 夏

No.76

証券コード：7942

第56期 報告書　平成25年4月1日～平成26年3月31日

社長メッセージ

Message from the President

代表取締役社長　**塚本　耕三**

JSPニュース　No.76　Contents

社長メッセージ …… 01
特集 …… 03
トピックス …… 07
連結財務ハイライト …… 08
連結セグメント情報 …… 09
要約連結財務諸表 …… 11
JSPカレンダー …… 13
株主優待制度／配当実績 …… 16
会社情報 …… 17
表紙の写真 …… 18

さらなる事業拡大を目指して、

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成26年3月期におけるわが国経済は、円安・株高基調で推移し、消費税率引上げ前の特需もあり緩やかな回復基調となりました。また、世界経済は、米国では雇用や住宅市場に明るい動きが見られ、アジアでは引き続き高い成長率が継続し、欧州では債務危機から緩やかに改善しつつあり、景気は回復に向かいました。

発泡プラスチック業界は、原燃料価格の高騰への対応もあり上半期は厳しい状況が続きました。下半期は、消費税率引上げ前の住宅・自動車・大型家電などの耐久消費財の需要が本格化し断熱材や緩衝材の需要が増加しましたが、一方で、更なる原燃料価格の上昇に加え、大雪などによる物流への影響もありました。これらの状況を受け、当社グループは、製品価格是正に努めると共に、需要増への生産・販売対応、成長分野に対する生産能力増強、独自技術に基づいた付加価値の高い製品の販売に注力しました。

次に、各事業本部の状況についてご報告いたします。

まず、押出事業の第一事業本部では、液晶テレビ基板やデジタル家電輸送用に用いられる緩衝包装材の発泡ポリエチレンシート「ミラマット」は、大型デジタルテレビの普及が一巡したことによる需要減の影響を受け売上が減少しました。ポリエチレン気泡緩衝材「キャプロン」は、家電向け需要が減少しましたが、新たな部品包装材用途への採用拡大により売上は増加しました。

自動車部品や家電製品の通い函などに用いられる発泡ポリプロピレンシート「Pボード」は、スマートフォン・タブレット端末のガラス基板輸送など、新たな分野への用途開拓が進み売上が増加しました。トラックの積載品の保護や部品の通い函に用いられる発泡ポリエチレン押出ボード「ミラプランク」は、物流量が伸び売上が増加しました。

即席麺・弁当容器等として幅広く用いられる食品用包材の発泡ポリスチレンシート「スチレンペーパー」は、引

積極的に挑戦を続けてまいります。

き続き堅調な需要に支えられ、新製品の拡販、新規需要の取り込みもあり売上が増加しました。広告宣伝用ディスプレイ材、折箱に用いられる発泡ポリスチレンシート「ミラボード」は、消費税率引上げ前の大型家電等の特需もあり売上が増加しました。

建築土木資材分野の主力製品である発泡ポリスチレン押出ボードの住宅用断熱材「ミラフォーム」は、主に、戸建住宅や分譲マンションの省エネ需要増に加え、消費税率引上げ前の需要増もあり、売上が増加しました。なお、第1四半期連結会計期間より日本アクリエース株式会社を連結子会社としております。

これらの結果、押出事業の第一事業本部の売上高は、39,614百万円（前年同期比12.7%増）となり、営業利益は1,926百万円（同19.3%減）となりました。

次に、ビーズ事業の第二事業本部では、発泡ポリプロピレン「ピーブロック」は、主にバンパーコア材・内装材・シートコア材等の自動車部品のほか、ユニットバス向け保温緩衝材・IT製品輸送用通い函・家電製品用緩衝包装材・競技用グラウンド基礎緩衝材等に用いられており、世界各地で製造販売を行っております。

日本国内では、自動車メーカーの北米向け輸出の回復や消費税率引上げ前の需要増により自動車資材分野の売上が増加しました。緩衝包装材分野は、家電メーカーの海外移転による需要減がありましたが、ユニットバス向け保温緩衝材の需要拡大により売上が増加しました。

北米及びブラジルでは、自動車市場が引き続き好調に推移し売上が増加しました。

欧州では、現地通貨での売上は減少したものの、円安の影響により売上は増加しました。

アジアでは、自動車市場及び家電市場が依然高い成長を維持したことから売上が増加しました。

発泡性ポリスチレン「スチロダイア」は、水産・農業用及び家電用緩衝包装材分野では、季節による需要変動がありましたが、通期では前期並みの需要を確保し、建材・土木分野では、需要が増加したことに加え、原燃料価格高騰に対応した価格是正の寄与もあり売上は増加しました。

ユニットバス天井材に使用されているハイブリッド成形品「スーパーブロー」は、新モデルの需要が堅調に推移し売上が増加しました。

これらの結果、ビーズ事業の第二事業本部の売上高は、67,034百万円（前年同期比20.9%増）となり、営業利益は4,545百万円（同69.1%増）となりました。

次に、その他についてですが、一般包材は、国内では消費税率引上げ前の大型家電などの需要増により売上が増加しました。

中国では省エネ家電の購入に対する補助金の打ち切りもあり需要が低調に推移し売上は減少しました。

これらの結果、その他の売上高は5,479百万円（前年同期比0.7%増）、営業損失は32百万円（前年同期は営業利益1百万円）となりました。

これらの結果、当連結期間の売上高は、112,128百万円（前年同期比16.8%増）となりました。

営業利益は5,909百万円（同29.2%増）、経常利益は6,509百万円（同32.1%増）、当期純利益は4,404百万円（同32.5%増）となりました。

平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
117,000	7,100	7,200	4,900	164.35

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月

塚本耕三

北九州工場が、完成いたしました。

当社は、かねてより福岡県北九州市において発泡ポリプロピレンビーズ（成型品「ピーブロック」用ビーズ）等の新工場の建設を進めてまいりましたが、この度完成し、4月24日に竣工式を執り行いました。

発泡ポリプロピレンビーズは、自動車用のバンパーコア材を始め各種内装材に数多く使用されており、国内自動車の生産が九州地区に集中する中、その動きに対応すべく当地に建設致しました。

当工場は、隣接する東洋コルク小倉工場にパイプラインで発泡ポリプロピレンビーズを供給する構造で、生産性、輸送効率を高めることで、さらなる競争力の強化を図っており、将来的にはアジアへの輸出拠点としての役割も視野に入れています。

今回の竣工で、当社の国内での発泡ポリプロピレンの生産工場は鹿沼市（栃木県）、四日市市（三重県）との三拠点体制を確立することとなり、安定供給体制を強化し需要の増大に対応していきます。

竣工式には、北橋北九州市長をはじめ、北九州市役所の方々、建設、設備関連の方々、自治体の方々をお招きし、当社からも井上会長（現：相談役）、塚本社長他国内の役職員だけでなく、海外グループの従業員も参列し60名以上が参加した盛大な式典となりました。

【 北九州工場 外観 】

【 竣工式の様子 】

宗像神社神職による修祓

始動式（左より）
代表取締役 会長 井上 六郎（現：相談役）
代表取締役 社長 塚本 耕三
取締役 専務執行役員 臼井 宏

直会の様子

記念植樹

ミラボード　Miraboard

誌上工場見学２回目の今回は、食品容器、ディスプレイ資材、緩衝材など幅広く利用されている**ミラボード（発泡ポリスチレンボード）**をご紹介いたします。
様々な分野で利用されているミラボードは、1977年より販売されており、軽量でかつ品種が多様化されるなど、加工性に優れています。

【製造工場】

鹿沼第一工場　栃木県鹿沼市

北海道工場　北海道江別市

全2工場で生産

＜お弁当容器ができるまで…＞

STEP1 ― 原料投入 ―

原料、発泡剤を押出機に投入します。(写真はポリスチレン)

STEP2 ― 混練･押出発泡 ―

投入した原料を練り合わせ、指定の厚さに押出し発泡します。

STEP3 ― 裁 断 ―

指定の長さに断裁します。

STEP4 ― 養 生 ―

物性が安定するまで養生します。

～加工性に優れているミラボード～

- 平滑性：表面がとても滑らかなミラボードに直接印刷を行うと、綺麗な光沢を活かした仕上がりになります。
- 粘着性：粘着タイプのミラボードはポスターの芯材に使用され、見やすく展示することが可能です。
- 緩衝性：ミラボード自体が軽量で、緩衝性に優れ、製品を傷つけずに輸送することが可能です。

ミラボードはこんなところで使われています

カラーボード

ディスプレイ資材

お弁当容器

STEP5 ― 出 荷 ―

加工メーカー様の所へ運ばれます。

STEP6 ― 成型加工（お客様）―

①不要な部分を切り取り癒着加工します。

②仕切りをつけ、お弁当容器が完成します。

新製品

屋根断熱・外張断熱の決定版 省エネH25年基準対応／トップランナー制度対象製品

ミラジョイント®

母屋からも簡単に取り出せるので商品管理も安心、一人施工でも張りやすく、作業効率を大幅にアップさせました。

断熱性能を高めながら、施工を簡略化

外張断熱工法は、外側を断熱材がすっぽりと覆うので、断熱効果が高くなります。

そのため、外気温の影響を受けにくいので室内の冷暖房効率も高まり省エネ効果が期待でき、また結露対策にもなります。「屋根外張パネル」は屋根断熱施工・リフォームに最適な断熱材です。

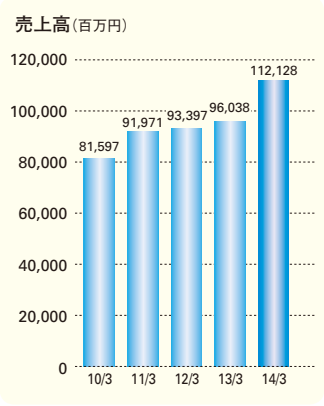
この継ぎ手の構造により、横ズレもなく伸縮の許容範囲もクリアできます。

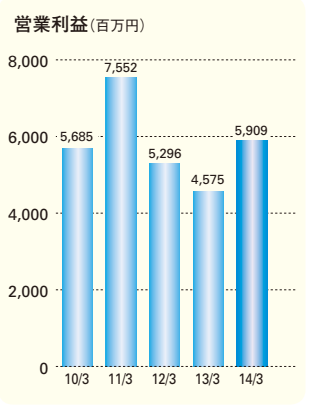
ーお問い合わせ窓口ー
株式会社JSP　建築土木資材事業部　住宅資材グループ　TEL　03-6212-6363

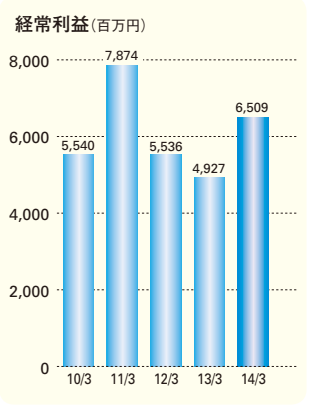
連結財務ハイライト

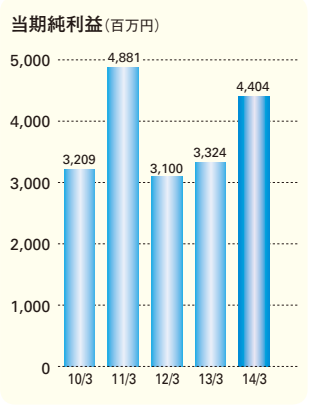
Consolidated Financial Highlights

（単位：百万円）	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
売上高	81,597	91,971	93,397	96,038	112,128
営業利益	5,685	7,552	5,296	4,575	5,909
経常利益	5,540	7,874	5,536	4,927	6,509
当期純利益	3,209	4,881	3,100	3,324	4,404
純資産	45,912	46,481	47,362	53,431	62,375
総資産	86,197	89,152	89,072	95,565	108,420
（単位：%）					
売上高営業利益率	7.0	8.2	5.7	4.8	5.3
売上高経常利益率	6.8	8.6	5.9	5.1	5.8
売上高当期純利益率	3.9	5.3	3.3	3.5	3.9
（単位：円）					
1株当たり当期純利益	103.35	161.25	103.98	111.49	147.73
1株当たり純資産	1,391.92	1,470.44	1,499.89	1,671.55	1,940.48
（単位：百万円）					
設備投資	3,203	3,368	6,006	6,215	8,735
減価償却費	4,688	4,582	4,607	4,390	4,865









連結セグメント情報

Consolidated Segment Information

押出事業

押出事業は、当社グループの売上高の35.3%を占めています。

生活産業資材（食品包材分野）

「スチレンペーパー」は、新製品の拡販、新規需要の取り込みもあり売上増加。

スチレンペーパー

ミラボード

生活産業資材（産業資材分野）

「ミラマット」は大型デジタルテレビ需要一巡で売上減少。他包装材は売上増加。

ミラマット

ピーシャイン

建築土木資材

住宅用断熱材「ミラフォーム」は省エネ需要増に加え消費増税前の需要増もあり売上増。

ミラフォーム

ミラネクスト

スチロダイアブロック

ビーズ事業

ビーズ事業は、当社グループの売上高の59.8%を占めています。

高機能材 EPP（発泡ポリプロピレン）

国内は自動車資材分野は売上増、緩衝包装材分野は需要減。北米、南米向け自動車用途順調で売上増。

ピーブロック（緩衝材）

ピーブロック（自動車部材）

EPS（発泡ポリスチレン）

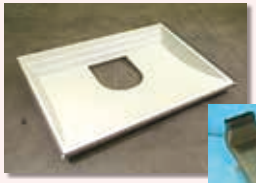
建材、土木分野で需要が増加したことに加え、原燃料価格高騰に対応した価格是正もあり売上増。

スチロダイア

ヒートポール

ブロー成型品

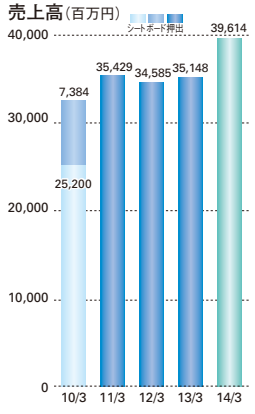
ユニットバス天井材は、新モデルの需要増加により売上も増加。



スーパーブロー

スーパーフォーム

同事業の売上高の推移



※2010年4月より、これまでのシート事業およびボード事業を統合し、押出事業としております。

その他

その他は、当社グループの売上高の4.9%を占めています。

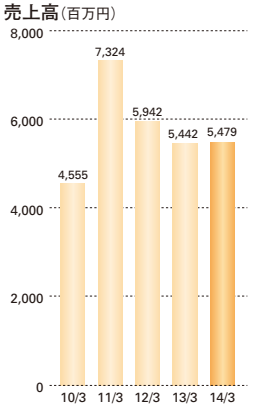
国内一般包材

消費増税前の大型家電などの需要増により売上増。

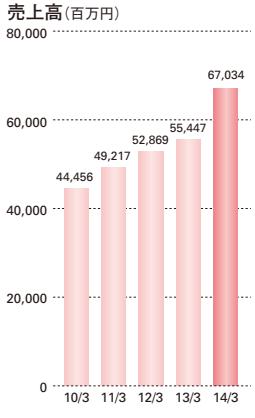
中国一般包材

省エネ家電の購入に対する補助金の打ち切りもあり需要が低迷。

同事業の売上高の推移

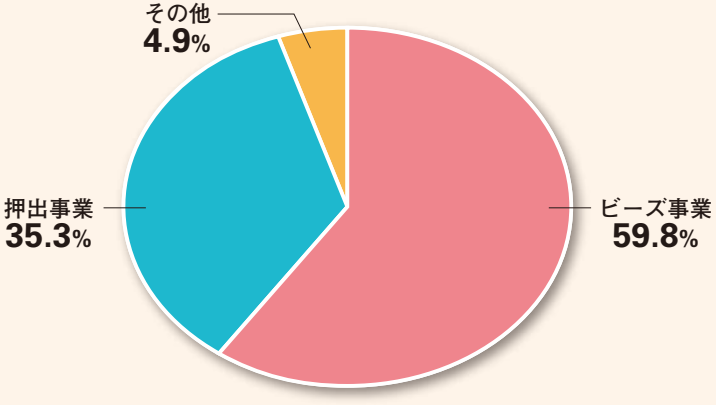


同事業の売上高の推移



※2011年4月より、これまで「その他」に区分しておりましたスーパーブロー並びにスーパーフォームは、ビーズ事業に移管しております。

事業別売上高構成比



要約連結財務諸表

Summary of Consolidated Finalcial Statements

要約連結貸借対照表

（単位：百万円）

（資産の部）	当　期 2014年3月31日現在	前　期 2013年3月31日現在	前期比増減額
流動資産	59,255	52,883	6,372
現金及び預金	10,197	11,254	△ 1,057
受取手形及び売掛金	32,226	28,820	3,406
有価証券	43	7	36
商品及び製品	6,890	5,894	995
仕掛品	1,007	787	220
原材料及び貯蔵品	4,329	3,651	678
その他	4,987	2,731	2,256
貸倒引当金	△ 427	△ 263	△ 163
固定資産	49,164	42,682	6,482
有形固定資産	44,743	38,480	6,262
建物及び構築物	12,719	11,952	766
機械装置及び運搬具	13,103	10,844	2,258
土地	14,194	13,972	221
その他	4,726	1,711	3,014
無形固定資産	1,102	1,057	45
投資その他の資産	3,319	3,143	175
投資有価証券	1,682	1,799	△ 117
その他	1,663	1,356	306
貸倒引当金	△ 26	△ 12	△ 14
❶ 資産合計	108,420	95,565	12,855

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❶資産合計
総資産は108,420百万円で、前連結会計年度末に比べ12,855百万円増加しました。このうち流動資産は6,372百万円増加し、固定資産は6,482百万円増加しました。

（負債の部）	当　期 2014年3月31日現在	前　期 2013年3月31日現在	前期比増減額
流動負債	32,404	31,251	1,153
支払手形及び買掛金	11,277	10,611	665
短期借入金	6,620	6,398	221
1年内返済予定の長期借入金	4,872	5,209	△ 337
その他	9,634	9,031	603
固定負債	13,639	10,881	2,757
長期借入金	10,376	8,818	1,557
退職給付に係る負債	1,907	—	1,907
その他	1,356	2,063	△ 707
❷ 負債合計	46,044	42,133	3,911
（純資産の部）			
株主資本	58,780	55,272	3,507
資本金	10,128	10,128	—
資本剰余金	13,405	13,405	—
利益剰余金	36,621	33,111	3,510
自己株式	△ 1,374	△ 1,372	△ 2
その他の包括利益累計額	△ 926	△ 5,434	4,507
その他有価証券評価差額金	179	139	39
為替換算調整勘定	△ 596	△ 5,573	4,977
退職給付に係る調整累計額	△ 509	—	△ 509
少数株主持分	4,522	3,593	928
純資産合計	62,375	53,431	8,943
負債及び純資産合計	108,420	95,565	12,855

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❷負債合計
負債は46,044百万円で、前連結会計年度末に比べ3,911百万円増加しました。このうち流動負債は1,153百万円増加し、固定負債は2,757百万円増加しました。

要約連結損益計算書

（単位：百万円）

	当　期 2013年４月１日から 2014年３月31日まで	前　期 2012年４月１日から 2013年３月31日まで	前期比 増減額
売上高	112,128	96,038	16,090
売上原価	83,888	70,630	13,257
売上総利益	28,240	25,407	2,832
販売費及び一般管理費	22,331	20,832	1,498
営業利益	5,909	4,575	1,333
営業外収益	937	798	138
営業外費用	336	445	△ 108
経常利益	6,509	4,927	1,581
特別利益	122	44	77
特別損失	95	219	△ 124
税金等調整前当期純利益	6,536	4,752	1,783
法人税等	1,900	1,178	721
少数株主損益調整前当期純利益	4,636	3,574	1,062
少数株主利益	231	250	△ 18
当期純利益	4,404	3,324	1,080

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❹営業利益、経常利益、当期純利益

国内、業界では、上半期は原燃料価格の高騰への対応もあり厳しい状況が続きました。下半期は、消費税率引上げ前の住宅・自動車・大型家電などの需要が本格化し断熱材や緩衝材の需要が増加しましたが、一方で、更なる原燃料価格の上昇に加え、大雪などによる物流への影響もありました。北米・南米・アジアでは、自動車市場は好調に推移しました。これらの状況を受け、当社グループは、付加価値の高い製品の販売に注力しました結果、営業利益は5,909百万円(前年同期比29.2%増)、経常利益は6,509百万円(同32.1%増)、当期純利益は4,404百万円(同32.5%増)となりました。

連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	当　期 2013年４月１日から 2014年３月31日まで	前　期 2012年４月１日から 2013年３月31日まで	前期比 増減額
少数株主損益調整前当期純利益	4,636	3,574	1,062
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	40	△ 9	49
為替換算調整勘定	5,786	3,243	2,543
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 0	0	△ 0
その他の包括利益合計	5,826	3,234	2,592
包括利益	10,462	6,808	3,654
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	9,421	6,012	3,409
少数株主に係る包括利益	1,041	796	245

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約連結キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	当　期 2013年４月１日から 2014年３月31日まで	前　期 2012年４月１日から 2013年３月31日まで	前期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,200	7,522	△ 322
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,430	△ 5,783	△ 2,646
財務活動によるキャッシュ・フロー	190	△ 1,160	1,351
現金及び現金同等物期末残高	6,972	7,015	△ 42

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❸売上高

円安による外貨建売上の円換算額の増加や製品価格是正効果もあり前年同期比16.8%増の112,128百万円となりました。

連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当連結会計年度	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
2013年4月1日残高	10,128	13,405	33,111	△ 1,372	55,272	139	△ 5,573	－	△ 5,434	3,593	53,431
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 894		△ 894						△ 894
当期純利益			4,404		4,404						4,404
自己株式の取得				△ 2	△ 2						△ 2
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						39	4,977	△ 509	4,507	928	5,435
連結会計年度中の変動額合計	－	－	3,510	△ 2	3,507	39	4,977	△ 509	4,507	928	8,943
2014年3月31日残高	10,128	13,405	36,621	△ 1,374	58,780	179	△ 596	△ 509	△ 926	4,522	62,375

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2013

12 December

「三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱主催　個人投資家向け説明会（宇都宮支店）」に参加

12月10日、三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱が主催し、同社宇都宮支店で開催の「個人投資家向け説明会」に参加いたしました。

「SMBC日興証券㈱主催　個人投資家向け説明会（高岡支店）」に参加

12月13日、SMBC日興証券㈱が主催し、同社高岡支店で開催の「個人投資家向け説明会」に参加いたしました。

2014

1 January

「平成26年3月期　第3四半期決算短信」を発表

1月31日、東京証券取引所に平成26年3月期第3四半期決算短信を報告し、対外発表いたしました。

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
平成26年3月期　第3四半期（当期）	**83,705**	**4,921**	**5,368**	**3,968**
平成25年3月期　第3四半期（前期）	73,243	4,460	4,662	3,276
参考：平成25年3月期	96,038	4,575	4,927	3,324

2 February

「平成26年4月1日付け　会社人事及び機構改革」を発表

2月26日、平成26年4月1日付け会社人事及び機構改革を発表いたしました。

3 March

QCサークル活動全国大会開催

3月8日、当社恒例のQCサークル活動発表会全国大会を東京国際フォーラムにて開催いたしました。
全国8工場54サークルから選抜された11サークルと中国無錫工場の発表がありました。今大会で30回目を迎え、どの発表も聞き応えのある素晴らしい発表となりました。
今大会では3年連続優勝を果たした関西工場の王将サークルが金賞を受賞し、4連覇いたしました。

3月31日　平成26年3月期　決算日

資本の変更

資本金	**平成26年3月31日現在**	**10,128百万円＜増加なし＞**
	平成25年9月30日現在（前回報告）	10,128百万円
発行済株式総数		31,413,473株

4 April

「SMBC日興証券㈱主催　個人投資家向け説明会（高松支店）」に参加

4月11日、SMBC日興証券㈱が主催し、同社高松支店で開催の「個人投資家向け説明会」に参加いたしました。

「北九州工場　竣工式を執り行いました」

4月24日　北九州工場にて、竣工式を執り行いました。詳細は「特集　北九州工場の紹介」をご覧ください。

「代表取締役の異動に関するお知らせ」を発表いたしました。

氏　名	新役職名	現役職名
井　上　六　郎	相談役	代表取締役会長

平成26年3月期　決算発表

4月30日、東京証券取引所にて平成26年3月期決算の報告を行い、対外発表いたしました。

2014

5 May

「連結子会社からの事業譲受に関するお知らせ」を発表いたしました。

当社100％出資の連結子会社である日本アクリエース株式会社から7月1日付で事業を譲り受けることを決議しました。尚、当該子会社は、当社100％出資の子会社であるため、当社連結業績への影響は軽微であります。

決算説明会開催

5月22日、如水会館において、アナリスト・ファンドマネージャーに対し、平成26年3月期決算の説明会を開催いたしました。

6 June

6月27日、定時株主総会を開催いたしました。尚、当定時株主総会において取締役の選任・決定をいたしました。

職　位	氏　名	委　託　業　務
代表取締役社長	塚本　耕三	
取締役 専務執行役員	臼井　宏	第二事業本部長
取締役 専務執行役員(昇任)	斉藤　吉成	総務人事本部長、 経理財務本部管掌、 内部統制部担当
取締役 常務執行役員	小野　秀夫	第一事業本部長、 建築土木資材事業部長
取締役 常務執行役員(昇任)	及川　泰男	研究開発本部長、 新事業開発室長
取締役 常務執行役員(昇任)	若林　功一	第一事業本部生活産業資材事業部長
取締役 執行役員	近藤　正	経営企画本部長、 経営企画部長
取締役 執行役員	鈴木　高徳	経理財務本部長
取締役（新任） 執行役員	七間　清孝	物流資材本部長、 総合技術本部管掌
取締役（社外）	山根　祥弘	
執行役員	倉成　博己	第二事業本部高機能材事業部長、 特販部管掌

職　位	氏　名	委　託　業　務
執行役員	北浜　卓	研究開発本部鹿沼研究所長
執行役員	所　寿男	第二事業本部高機能材事業部副事業部長、 海外事業部管掌
執行役員（新任）	田中　正行	研究開発本部四日市研究所長
執行役員（新任）	山田　真司	杰斯比塑料（上海）有限公司董事長、 杰斯比塑料（無錫）有限公司董事長、 杰斯比塑料（東莞）有限公司董事長
執行役員（新任）	扇　晋哉	第二事業本部EPS事業部長
監査役（新任）	寺西　耕一	（常勤）
監査役（社外）	橋本　雅司	（常勤）
監査役（新任）	木嶋　純	（非常勤）
監査役（新任） （社外）	織作　正美	（非常勤）

今後の予定

7月下旬　平成27年度3月期　第1四半期決算　発表予定　／　10月下旬　平成27年度3月期　第2四半期決算　発表予定

株主優待制度／配当実績

Shareholder Benefit/Dividend Record

株主優待制度

〈デザイン見本〉

■対象株主様

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または登録された1単元（100株）以上を保有されている株主様

■優待の内容

一律3,000円相当の、社会貢献寄附金付オリジナルクオカード（株主様は3,000円全額ご使用いただけます）

■贈呈の時期

毎年の株主総会終了後に発送予定

■社会貢献寄附金「緑の募金」について

1995年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、（公社）国土緑化推進機構及び各都道府県緑化推進委員会が行っている募金です。集められた寄附金は、森林整備・緑化推進事業・森林に関わる人づくりなどに活用されています。

配　当　実　績

■株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な政策として位置付けております。利益の配分につきましては、安定した配当を重視するとともに、各事業年度の連結業績と将来の事業展開に必要な内部留保の充実などを勘案しながら、総合的に決定する方針としております。

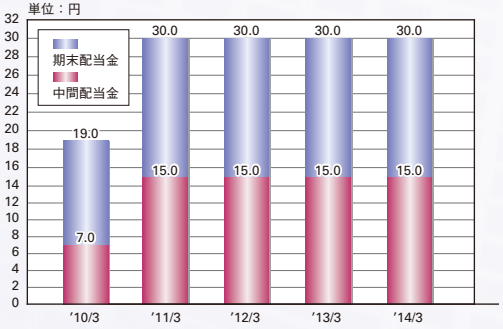
内部留保資金につきましては、財務体質の強化とともに、今後の新製品、新技術への研究開発投資や新規事業展開のための設備投資に充当してまいります。

なお、当社は、会社法第459条第1項に基づく剰余金の配当を取締役決議により行なうことができる旨定款に定めており、中間配当及び期末配当の年2回の取締役決議による配当を基本的な方針としております。

■当期配当金

当2014年3月期の1株当たりの配当金は30円、支払い済みの中間配当金を差し引いた期末配当金は１株当たり15円とさせていただきます。

■配当実績



会社情報（2014年3月31日現在）

Corporate Data

会社概要

商号	株式会社JSP
所在地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木・建築工事の設計・請負および管理
設立	1962年（昭和37年）1月
資本金	10,128百万円
決算期	3月
従業員数	698名（出向者除く） 連結2,735名（国内1,246名・海外1,489名）
事業所他	5営業所、1出張所、10工場、2研究所
主要関係会社	国内10社、海外28社

大株主

株主名	株数（千株）
三菱瓦斯化学株式会社	13,212
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,792
JSP取引先持株会	1,119
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,060
シー エム ビー エル, エスエー リ. ミューチャル ファンド	991
ジェーピー モルガン チェース バンク 385166	796
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	558
JSP従業員持株会	445
野村信託銀行株式会社	355
ザ バンク オブ ニューヨーク 133522	292

当社は自己株式1,599千株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html （ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。）

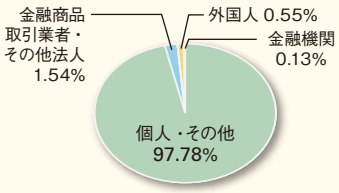
（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

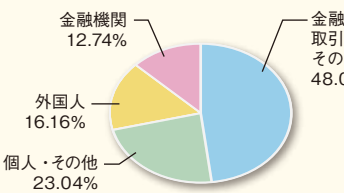
株式の状況

発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式の総数	31,413,473株
株主総数	22,132名

● 株主数別分布状況 ●



● 株式数別分布状況 ●



エクス・アン・プロヴァンスの旧市街

南フランス

撮影・文
清 水　準 一（写真家）

大噴水ロトンド

エクス・アン・プロヴァンス市（以下、エクスという）は今回の南仏の旅の目玉でした。昔のガイドブックの解説に「エクスへ来るのにカメラは要らない。どんなに上手く撮られた写真よりも、ずっとこの町の雰囲気を伝えてくれる絵があるからだ」という箇所を見つけました。その絵の作者はご当地出身のセザンヌ※1です。エクスの街はサント・ヴィクトワール山※2を背景にした人口13万人の小都市です。市のメインストリート「ミラボー通り」も駅から歩いて4分位です。そして、市の見どころもミラボー通りを中心に約1㎞四方にあります。私が訪れた時は朝市の日で、なんとなく通りの主役が「景観」から「市」に移り、撮り難かった記憶があります。本当はプラタナス※3の並木の優雅なところです。

南仏はフランスで最も人気の高いエリアで、多くの画家はこの地で活躍しています。例えばシャガール※4の旧約聖書を主題とした大作、マチス※5のロザリオ礼拝堂、ピカソの数々の陶芸品、ゴッホの一連の作品とエピソード、そして晩年のセザンヌの傑作など、数えればきりがありません。

その中でも、エクスはセザンヌの街と言えるでしょう。彼の生涯のテーマ「サント・ヴィクトワール山」や「山を写生した台地」「アトリエ」「道標のある散策路」など、セザンヌの全てが残っている観光の中心・主役だからです。

また、エクスは別名「千の泉の街」とも呼ばれミラボー通り沿いに3つの噴水があります。上の写真は「大噴水ロトンド」と呼ばれ市の観光スポットです。（泉の実数は100程です。）

※1　セザンヌ
ポール・セザンヌ。フランスを代表する画家。「近代絵画の父」とも言われる。
※2　サント・ヴィクトワール山
エクス東部にあり18kmにわたって連なる山。
※3　プラタナス
スズカケノキ属に属する植物の総称。
※4　シャガール
マルク・シャガール。フランスの画家。油彩画に等しい表現手段として、積極的に版画を手がけた。
※5　マチス
アンリ・マチス。フランスの画家。自然をこよなく愛し、緑あふれる世界を描き続けた画家。

Network

本社・事業所一覧

本　社			☎
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル）	03-6212-6300

営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル）	011-231-2681
仙台	〒980-0811	仙台市青葉区一番町2-4-1（仙台興和ビル）	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル）	052-962-3225
大阪	〒541-0053	大阪市中央区本町1-6-16（いちご堺筋本町ビル）	06-6264-7900
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17（五幸ビル）	092-411-6854

出張所			
広島	〒732-0052	広島市東区光町1-12-20（もみじ広島光町ビル）	082-568-0566

工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三※	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
事務管理センター	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
再資源センター	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂638	0289-76-6606
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町扇廣1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
北九州	〒800-0229	福岡県北九州市小倉南区曽根北町2937-7	093-474-7211
九州	〒861-0111	熊本県熊本市北区植木町宮原553	096-274-7101

研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

海　外

北　米

JSP International, LLC.（アメリカ）

JSP International de Mexico, S.A. de C.V.（メキシコ）

南　米

JSP Brasil Indústria De Plásticos Ltda.（ブラジル）

欧　州

JSP International SARL（フランス）

JSP International GmbH & Co.KG（ドイツ）

JSP International s.r.o.（チェコ）

JSP International o.o.o.（ロシア）

アジア

JSP Foam Products, PTE. Ltd.（シンガポール）

Taiwan JSP Chemical Co., Ltd.（台湾）

KOSPA Corporation（韓国）

JSP Plastics (Wuxi) Co., Ltd.（中国）

JSP Plastics (Shanghai) Co., Ltd.（中国）

Kunshan JSP Seihoku Packaging Material Co., Ltd.（中国）

JSP Plastics (Dongguan) Co., Ltd.（中国）

JSP Foam India Pvt. Ltd.（インド）

※鹿沼第三工場は平成26年7月1日開設予定。

発行　**株式会社 JSP**

東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル

広報IR室　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6302

ホームページ　www.co-jsp.co.jp

VEGETABLE OIL INK

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています